

平成28年度福岡市小図研 9月定例会記録

文責：安部春伊（和白東小学校）

9月定例会の内容

日時：平成28年9月24日（土）

13:00～16:30

場所：福岡市立横手小学校図工室

内容：実技研修 13:00-15:30

「スケッチ線がきの指導」

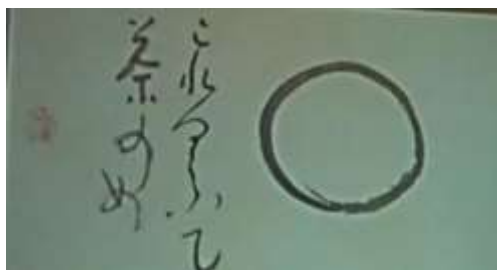
講師 三重野 睦美 先生

（八田小学校）

授業研究部会 15:30-16:30

参加人数：33人

究極の線がきとは・・・



線だけでまんじゅうを表しているのですが、のびのびとした美しさと相手への思いやりが詰まった作品です。線がきとは、上手に描くことではなく「思ったままの気持ちを表現できるもの」で、つくり出す喜びを味わうことができます。

1 線描画について

○ 発達段階による絵の様相

なぐりがきの時期（1～3歳）

たたきつけるようななぐりがきから、閉じた円がかけられるようになる。

シンボル期（3～5歳）

円に手足がついて頭足人をかく。

物語のある絵（5～8歳）

輪郭線をかく→展開描法

（画面の下側にかれたものが逆さになる）

→9歳以降はアニメのようなもの、重なりをかくことができるようになる。



2 スケッチ指導の実際

○ スケッチで困ること

・かくことを思いつかない、進まない、上手にかけない・・・

→ ノートや発言、プリントを使って感じたこと思ったことを引き出すことが大事！



写実性よりも感じたもの
思ったことをのびのびと・・・



「風景画～場所の選び方・大事な線とは・重なり」

【どこをかくのか場所を選ばせる時のポイント】

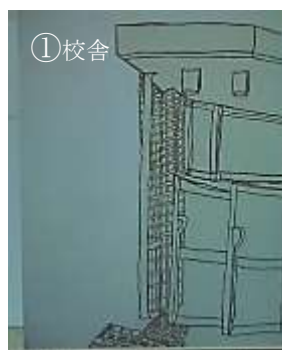
- ① 縦・横だけでなくたくさん線があるところを
- ② 変化があるところを
- ③ 単純ではないところ「できあがりが見えやすい」
- ④ 「よくない例」を最初に伝える（かくときに簡単すぎるとすぐ終わる）
- ⑤ 重なりがあるところを

風景を線がき
させるときには
まず形を太まかに
捉える。
単純な形でかく。



※形が捉えられない時には、指で線を追わせるとよい。

重なりを考えさせ、手前にあるものから順番にかかせるようにする。



実技研修 1

「似顔絵をかいてみましょう」



上手に描こうではなく感じたことをそのまま線に表してみることがポイントです！！



先生方の作品です。
似顔絵で一番大事な部分は目です。



【線がきに使う道具】

○ わりばしペン

先をカッターで細く削るなどして形を変える。



○ 墨汁

ティッシュを入れた紙コップに墨を入れる。倒れても墨汁がこぼれなくてよい。



○ スケッチペン

少し太めの 線がかけて、かきやすい。



実技研修 2 「発想を広げる」



テーマを中心にかき、そこから発想することを枝に書いていきます。今回の実技研修では、「10月」をテーマに発想を広げてマインドマップをかきました。マインドマップそのものが作品になります。

